

萬世橋驛

児玉 寛嗣

秋葉原駅から電気街側に出て、神田方面に向かって歩くと右手に神田川を隔てて赤レンガの中央線の高架が見えて来る。この場所にはかつて萬世橋という駅があった。甲武鉄道（後の中央線）の終着駅として明治四五年に開業。駅舎は辰野金吾の設計による赤煉瓦造りのものだった。豪華で、特別待合室、食堂、バーなどもあった。駅前には広場になっており、市電が往来、乗り換え客で賑わいがあった。万世橋のたもとのガイド板にある在りし日の駅舎の画を見て東京駅に似ていると思ったが、後に出来た東京駅も同氏の設計によるので合点がいく。

大正八年には中央線が萬世橋驛から東京駅まで伸びてターミナル駅の座を奪われ、中間駅となった。その数年後の関東大震災では豪華な駅舎も焼失し、再建されたのは小規模のものだった。大正十五年には近くに秋葉原駅が出来て、中央線が乗り入れることになったため乗換駅としての需要もなくなり寂れていった。駅舎は縮小され鉄道博物館（その後、交通博物館）に併設される駅として残った。しかし、利用客も激減したため昭和十八年にはついに休止駅に、事実上の廃止。開業からわずか三二年でその歴史の幕を閉じた。交通博物館もさいたま市に移転し、鉄道の博物館と元の名前に戻って営業されている。

現在、高架下を利用して、赤レンガにマッチした洒落た店舗が軒を連ねているが、その一郭に駅があったことを物語るものが遺っている。駅のホームに通じる階段だ。白いタイルの壁に「この階段は歴史的な遺構階段です。遺構保存の主旨により建造当時のままご利用いただいております……」との表示がある。タイムスリップした気持ちで賑やかだった頃に思いを馳せ、階段を上がる。途中には破れたままの古いポスターもある。登り終わるとホーム跡に出る。青色の下地に白い字で「まんせいばし」と書かれた縦書きの標識。両側はガラス張、その外を中央線の電車が駆け抜ける。駅の栄枯盛衰を感じる散策であった。

